

「い(生・逝)きかた」は、自分で決める 私たちが行う“人生会議”

私たちは何らかの形で人生の最期を迎えます。その時がいつ来るかはだれもがわかりません。その時になってから考えるのでは遅い場合があります、本人に意識がなく、家族が判断を迫られる場合もあります。大切なのは、どんな人生を送りたいのか、医療に何を望んでいるのかを日ごろから考え、家族など大切な人と共有しておくことです。

この講座が、これからについて考え話し合える機会となることを願います。

とき

令和2年3月1日(日)
13時30分～15時

ところ

鳥羽市保健福祉センターひだまり
ひだまりホール

講師

終活ジャーナリスト
ライフ・ターミナル・ネットワーク代表
金子 ^{わかこ} 稚子氏



<講師のご紹介>

夫は、2012年10月に他界した流通ジャーナリストの金子哲雄。

病気の確定診断とともに死の宣告を受けた夫の闘病生活や死に寄り添う中で、死がタブー視されるがために起こっている様々な問題に気づく。夫と死別後は雑誌・書籍の編集者だった経験を生かして、医療から葬儀・供養、墓、さらには遺族ケアにいたるまで、死の前後に関わる様々な事象や取り組み、産業を取材。多死社会を目前に控える今、起こるだろう問題について警鐘を鳴らし、情報発信や提言を行っている。

また、死別経験者として、当事者の話でありながら、単なる体験談にとどまらない人生の最終段階から臨終、さらに死後・死別後のことまでも分析的に捉えた冷静な語り口は、医療関係者、宗教関係者からも高い評価を得ている。

さらに、人々の死の捉え直しに力を入れ、従来のものとは一線を画す“真の終活”、すなわちアクティブ・エンディングを提唱。多岐にわたる様々な情報提供とともに、私たち自身が自分で「いきかた」を決める必要性を訴えている。

厚生労働省「人生の最終段階における医療・ケアの普及・啓発の在り方に関する検討会」では、構成員として10年ぶりとなったガイドライン改定に関わったほか、2019年からは一般社団法人日本医療コーディネーター協会共同代表理事に就任。

【主催】鳥羽市在宅医療・介護連携部会 【共催】志摩医師会・鳥羽市

【お問い合わせ】鳥羽市健康福祉課 (0599-25-1182)

○と き：令和2年3月1日（日）

○ところ：鳥羽市保健福祉センターひだまり

（鳥羽市大明東町2番5号）

「鳥羽市在宅医療・介護連携会議」

市民公開講座

< 参加申込書 >

お名前	住所 (*医療機関・介護事業所の方は事業所名)	連絡先

※令和2年2月21日（金）までにお申込みください。

FAX：0599-25-1154（鳥羽市健康福祉課）